

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

## 9. ヤブガラシ（ブドウ科ヤブガラシ属）

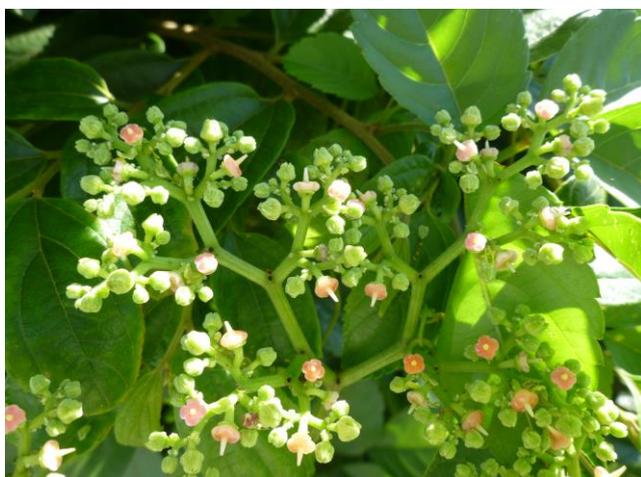
*Cayratia japonica* (Thunb.) Gagn.

2014年8月

藪や道端、畑によく見られるつる植物で、地下茎はよく発達して旺盛に繁殖する多年草です。1 個体からたくさん芽を出し、茎は数mにも伸び、巻きひげは分枝し他のものに巻きつけ、覆いかぶさるように生育する様子から「藪枯し」と名付けられました。別名はビンボウカズラといい、手入れの行き届かない庭で旺盛な生育を見ることから、貧乏な人が住んでいるように見えるのでしょうか。葉は5枚の小葉からなる鳥足状複葉で、頂小葉は最も大きく卵形から長楕円形で長さ4~10 cm、幅2~5 cmでほとんど無毛です。花は7~8月に径5 mmほどの小さな花が集散花序につけ、花弁は4個あり淡緑色です。花には蜜が豊富で、ハチやチョウなどの昆虫がよく集まります。紅色を帯びた出芽直後の若芽は食用になり、また、全草は生薬として利尿、解毒、鎮痛などに効果があるとされます。分布は北海道西南部、本州、四国、九州、琉球、台湾、朝鮮、中国、マレーシア、インドです。



ヤブガラシ



ヤブガラシの花